セント・ルカ産婦人科
LUKE MAGAZINE SUMMER

ルカ新聞

No.23 2011.6.

新病院

柘榴（ざくろ）

神の憐れみのみ心によって、高いところから暁の光がわれらを訪れ、照らし、我らの歩みを平和の道に導く。

ルカによる福音書、1章78～79節

大変な災害が日本を覆っています。1000年に1回という地震が東北地方を襲いました。その結果、日本中が暗くなっています。しかし、その中でも明るい兆しがそこここから報告され始めました。それらを聞いてわたしたちも気持ちが明るくなります。早く復興することを願います。この災害だけでなく、日常生活においても、困難に直面したとき、わたしたちが暗い闇に包まれたとき、どうしてよいかわからなくなったとき、真剣にどうしようかと思案しているとき、ふと、思いがけず明るい兆しが見えてくることがあります。それは何もわたしたちの力によるものではありません。それはまったく一途に神様からの一方的な憐れみの愛の働きかけなのです。わたしたちはそれほどいいことをしたわけでもなく、ほめられることを行ったわけでもなく、ただ、懸命に生きているだけです。そこでは神様はまったく駆け引きも無く、わたしたちを守ってくださっています。それを信じることができるのも、また、神様からの一方的なお導きなのです。そしてこの文章を読んでいるあなたも、神様からの一方的なお導きによってこの機会を与えられているのです。いつも神様はわたしたちを見守ってくださっておられます。わたしたちがどうあろうとも。ですので、わたしは、日本は、特に東北地方は必ず、以前以上に復興し、繁栄すると信じています。

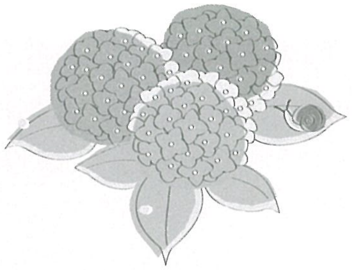
巻頭言

院長　宇津宮　隆史

この原稿を津守の地で書くのも最後になった。おそらくこの病院では、2011年６月末までに5,900件を超える妊娠が得られることになろう。19年間で医師ほぼ一人での結果であった。その間さまざまな成果、業績、問題点、まだ解決半ばの点などいろいろあるが、それらはすべて年報とこの新聞に掲載してある。ということにして、新しい病院での期待は、というと、いろいろある。数え切れない程ある。まずは、マン・パワー。この19年間に培ってきた理念を基にし、河邉先生も加えたスタッフの心意気である。われわれは何を考え、何を目標にし、何を求めてきたか。毎週火曜日午後、４時間以上かけてのミーティングと毎月開かれるキリスト教聖書の学びを基に、毎回確認してきた。そして、その結果が今につながっている。その点には自信を持ってよいと思う。しかし、今後はそれ以上に高いところを目指さねばならない。そのために新しい地に移るのである。まず交通の便。理想的に、かつ将来性も含めて最高の場所であろう。そこでその利点を最大限に利用し、単に生殖医療だけでなく、周産期以外の女性への医療を、世界最高水準の知識と技術を得て提供したい。そのための学習、準備、訓練、知識の共有を図らねばならない。そしてさらにそれを行い、実績を積み上げなければならない。そのことが直接患者さんの利益に結びつく。臨床の良いところはそこである。がんばればがんばるほど患者さんの利益に直結するのである。そして次に施設、設備も理想に近い設計をした。これ以上はないと思われるほどになった。当初は「質実剛健」を考えていた。しかし、相手はか弱き女性である。設計途中から設計士の意見も加わり、考えがどんどん変わってゆき、本当に患者さんのた

めの「心地よい空間」を目指すようになった。その結果、外来スペースは２倍に、病室は1.5倍の広さになった。「もう少しゆっくりしていきたい」と思われるような空間を作りたいと思った。さらに体外受精を行う無菌室は３倍の清潔度を保つ設備に設計した。さてその目的に沿うには、ハードだけでなくスタッフを中心にしたソフトも要求される。ハードは整ったはずである。しかしそれもすぐに旧くなるであろうが、今からそれが楽しみでもある。そして産婦人科診療を広く捉え、青春期から高齢婦人まで、すべての世代にわたって働きかけたい。また、その内容も、医療の範囲を広め、生活態度から心理面、その後の生活までを視野に入れた活動を目指したいと思う。産婦人科医療は２世代３世代にわたった医療である。ここが他の診療科とは違う、また重要な、そして重い点である。これを理念の中心に据えなければならない。

そして大分には生殖医療を中心とした婦人科診療のひとつのモデルがあるといわれるような施設にしたい。



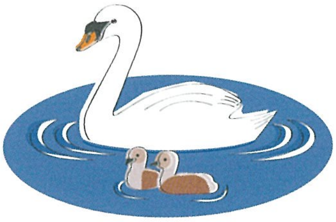
研究室だより

最近、数回体外受精をしても結果が得られない患者さんに、染色体検査を紹介しています。今回は、染色体検査について詳しくお伝えします。

私たちの染色体は、父親と母親から1本ずつもらった2本が対になった22セットの染色体と2本の性染色体を持っています（図1）。その染色体が私たちの体の細胞一個一個すべてに折りたたまれて入っています。受精したときに両親からもらった染色体が何兆個という細胞にコピーされたかと思うと、不思議な感じがしませんか？

ところで、受精時に22セットと性染色体のうちどこかが多かったり少なかったりすると、着床は出来てもそれ以上育つことができず、多くは流産してしまいます。

しかし、図2のようにある部分がくっついていたり、入れ変わっていたり（染色体転座）などの構造の違いは成人の230人に1人と、比較的高頻度に認められます。健康を害するような特別な異常ではありませんが、不妊の原因となります。無精子症の10～15%、高度の乏精子症の5～7%、2回以上流産した夫婦の5%ではどちらかにこのような構造の変異が認められます。このような変異が認められた場合、着床前診断の適応になる場合があります。着床前診断を行うことにより、妊娠率を上げ、流産率を下げることが期待されます。



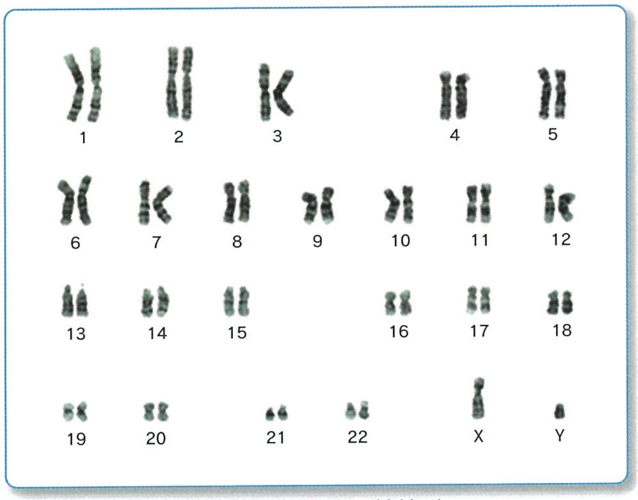


図1.染色体正常男性核型

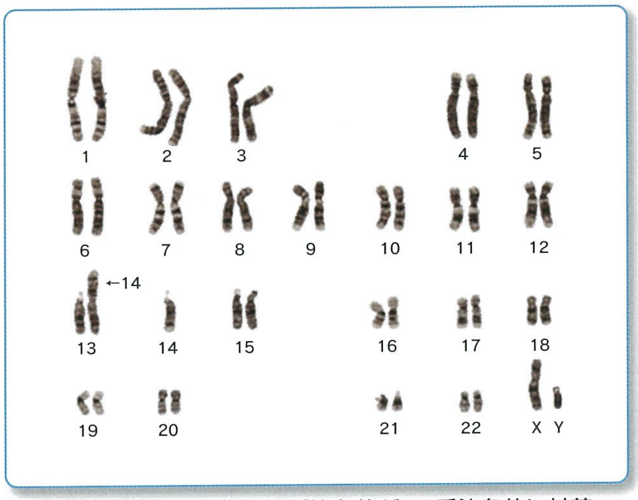


図2.染色体変異の例：14番染色体が13番染色体に付着

検査は少量の採血のみです。検査結果が出るまで3週間ほどかかります。
染色体の変異は、ほとんどが両親には関係がない新生変異ですが、なかには遺伝も考えられます。
不安なこと等がありましたら、スタッフまでご質問ください。

看護部だより

ART施設における40歳以上の
サポートグループの取り組みについて

看護部　篠田多加子

当院では、治療中の孤独感やストレスの軽減を目的とした40歳以上の患者さんを対象としたサポートグループを2001年に発足し、現在は第7期が活動している。

このグループは、2時間程度の自由な話し合い形式で行い、ある程度固定されたメンバーで、少なくとも6ヶ月間継続して参加していただいている。

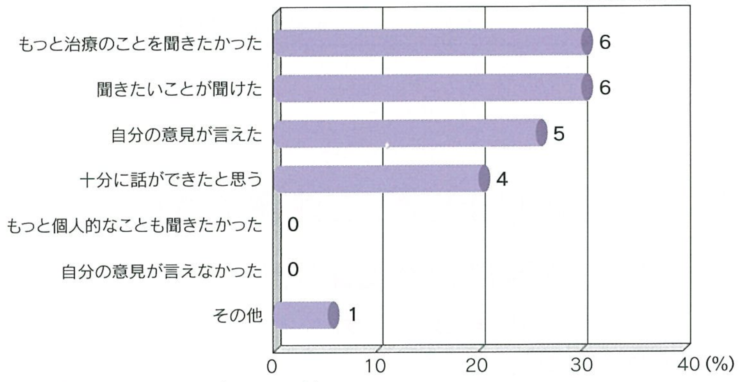
今回は3期・4期・5期の初回参加者20名を対象とし、質問紙をもとに参加動機や、会のあり方について再検討した。

＊＊＊ サポート・グループの実施内容 ＊＊＊

	初回の参加人数	初回の平均年齢	開催回数	合同開催回数
1期	8名	42.1歳	19回	8回
2期	5名	40.8歳	5回	
3期	4名	41.5歳	12回	11回
4期	8名	43歳	7回	
5期	8名	41.1歳	11回	なし

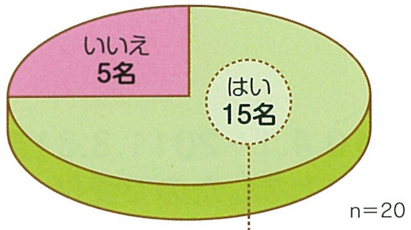
＊＊ サークルの参加理由と参加後の感想 ＊＊

Q:会に参加して、内容はどうでしたか？



（その他…よくわかりませんが、ほっとした）

＊この会に参加されて何か変わりましたか?＊



【はい】の内容

- 不安に思っていたことを他の人も同じように思っていたので少し安心した
- 同じ気持ちの人達と話しができたのでよかった
- 頑張っている同年代の方がたくさんいるので自分も頑張ろうと思った
- 少し気が楽になった
- 治療について励まされた
- 治療に対しての不安がだいぶなくなりました

〈自由記述より〉

- 同年代の方がいるっていうことと、同じ思いをしているということがわかってよかった。
- 不妊治療について、誰かと話をする機会を持ててよかったです。
- この機会に、待合室で会ったら、仲良くなれたらいいなと思っています。
- 同士に会えてよかった。
- 定期的に開催されて、他の方の話が聞けるといいなと思いました。

まとめ

1回だけの参加では仲間意識をはぐくむことや治療や子供、子供を持つことに対する思いを深めることはできないが、会へ参加したことで同じ治療、同年代であることに共感し、安心感が増していた。このことから、同じ仲間と集うことは意味があることだと思われる。今後も定期的な会の開催を行い、患者さんの思いや気持ちを語る場所を提供していきたい。

受付より

紫陽花のきれいな季節になりました。

さて、新病院への移転に伴い、7月1日よりインターネットを利用した受付予約システムを導入いたします。その事前準備として、5月9日よりすべての診療が受付予約制へと変わりました。7月1日以降の予約に際しては、待合室に設置しているタッチパネルにて予約をとっていただく方法と、携帯電話、インターネットから予約をとっていただく方法とがあります。予約システムを利用するには、事前に登録が必要になりますので、詳しくは受付におたずねください。

患者さんの待ち時間軽減を目的としたシステムです。皆様のご協力をお願い致します。

2010.4.1～2011.3.31まで当院を通して不妊治療助成金が交付された金額が集計されましたので受付より報告いたします。

	人　数	申請回数	助成金額
大分県	81	117	16,842,700
大分市	178	275	52,094,700
他　県	4	7	1,050,000
県と市両方	41	48	4,728,900
大分市以外	11	12	704,900
合　計	315	459	75,421,200

2011年4月より申請回数、申請期間が変わりました。ご注意下さい。

申請回数 助成金額

- 特定不妊治療について申請を行う**初年度(1年度目)**限り、年度内3回(1回が15万円上限)まで申請可能です。
- 前年度、申請された方は、年度内2回までです。
1回の上限→大分市は20万円、大分県は15万円です。

申請期間

治療が終了した日から60日以内の申請
(特定不妊治療以外の治療の場合は、年度内最後の施術日から60日以内の申請)

申請可能な方は、出来るだけ早めに受付まで持って来て下さい。
皆様、ご協力をよろしくお願い致します!

心理相談室より

一人で悩んでいませんか？

- ⊙これからの治療をどうしよう
- ⊙なんだか不安で落ち着かない
- ⊙イライラしたり落ち込んだりする
- ⊙そろそろ治療を止めた方が･･･と迷っている
- ⊙パートナーとなんとなくしっくりこない
- ⊙その他･･･なんだかストレスがたまっている　等

人に話すことで気持ちがすっきりしたり、なんとなくもやもやしていたものが整理されたりすることがあります。

●●●相談してみてもいいなと思う方は、看護師、受付スタッフに声をかけてください●●●

料金：一回一時間を目安に1,370円（体外受精の方は無料）

後藤裕子（看護師長）

就任ごあいさつ

2011年4月1日付で看護師長に就任いたしました。
辞令をいただき戸惑いと責任の重さを感じながら、無我夢中の日々を過ごしています。

7月にはセント･ルカ産婦人科も大分駅南口に新築移転することとなりました。理想的な環境が整うことにより、看護部としては、一人ひとりが日々学ぶ姿勢を持って自分の看護に誇りを持ち、生き生きと仕事をし、チーム医療の中で効率的に看護を提供できるようにありたいと願っています。

病院経営においては、より安全で安心できる医療の提供が不可欠です。
今現在治療に通っている患者さんが、安心して治療を受けていただく事、そして子供がいてもいなくても、「あの時受診してよかった」と後の人生で思えるような、そんなセント･ルカ産婦人科でありたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

青木麻有（受付）

新･人･紹･介

セント･ルカに入職して約三ヶ月が経ちました。毎日がとても忙しく、あっという間に一日が過ぎていっています。七月の移転にあたり、予約システムも導入され、また一つ覚えることが増えました。まだまだ初めてのことばかりで戸惑うことが多く、先輩方にサポートしていただいていますが、早く一人前になり患者さんのお役にたてるよう笑顔で頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

2011年　前期を振り返って

01.04 新年会（セント・ルカ多目的ホール）
01.08 第54回　新患教室　参加者57名　参加〈大津、相澤、後藤裕〉
01.15 第165回 体外受精教室　参加者50名　参加〈佐藤、岡田、二宮、篠田〉
01.18 第142回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会　野村陽一牧師先生、大山周治先生ご来院
01.22 第32回　日本エンドメトリオーシス学会（東京）　参加〈越光、後藤裕〉
発表：「挙児希望患者に対する卵巣チョコレート嚢胞の取り扱い
特にエタノール固定について」（院長）
01.22 第6回　2010年度（第4期）不妊相談士（不妊コンサルタント）養成講座（東京）　参加〈篠田〉
01.25 第12回　セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学　教授）、
緒方俊一先生（おがた泌尿器科医院　院長）、
近藤邦子先生（別府平和園　保育士）、
指山実千代（セント・ルカ産婦人科　看護部顧問）、
野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会　牧師）（五十音順）
01.29 第1回　第7期オリーブの会　参加者6名
01.29 全国ディナゲスト研究会（東京）　参加〈院長〉

02.01 院内全体研修：心肺蘇生法について（担当：看護部）
02.01 国際ジャーナリスト大野和基氏取材のためご来院
02.05 第2回　生殖心理カウンセラーおよび不妊相談士継続研修会（東京）　参加〈関、後藤裕、上野〉
02.05 日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会（東京）　参加〈上野、院長〉
02.06 第8回　日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会（東京）　参加〈小池、後藤裕〉
教育セミナー「生殖医療における心理援助の専門性と協働」座長：院長
ワークショップ「事例で学ぶ不妊相談・生殖心理カウンセリング」座長：上野桂子
発表：「胚移植不能後の説明における胚培養士の関わり方」（城戸京子）
（優秀演題賞受賞）
「近親者の妊娠を知った不妊症患者の心情」（関こずえ）
02.12 第55回　新患教室　参加者49名　参加〈長木、坂本、手島、足立直、後藤裕〉
02.14 第5回　別府遺伝医学セミナー（別府）　参加〈城戸、大津〉
02.15 第143回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会　野村陽一牧師先生ご来院
02.18 第2回　大分産婦人科内視鏡研究会世話人会（大分）　参加〈院長〉
02.19 第34回　JISART理事会（東京）　参加〈院長〉
02.19 平成22年度環境省環境研究・技術開発推進費　第2回　アドバイザリーボード会合（宮城）
参加〈佐藤〉
02.20 JISART施設認定審査説明会（東京）　参加〈越名、大津、後藤裕、上野〉
02.20 JISART出版編集委員会（東京）　参加〈院長〉
02.22 第104回 大分県周産期研究会（大分）
参加〈山路、平松、佐土原、西郡、足立小、金子、小池、佐藤、熊迫、長木、大津、坂本、手島、相澤、井澤、松元、二宮、斉髙、赤嶺、河野、関、後藤裕、指山、上野、院長〉
発表：「年齢別体外受精の成績」（城戸京子）
「ART施設における40歳以上のサポート・グループの取り組みについて」
（篠田多加子）
02.23 第201回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈河邉、院長〉
02.25 第2回　産科連絡会議（大分）　参加〈後藤裕〉
02.26 第7回　2010年度（第4期）不妊相談士（不妊コンサルタント）養成講座（東京）　参加〈篠田〉

03.01 新会計システム稼働
03.03 大分生殖医療懇話会（大分）
参加〈山路、平松、工藤、西郡、足立小、越名、金子、佐藤、城戸、熊迫、長木、大津、手島、相澤、川村、岡田、井澤、足立直、二宮、斉髙、赤嶺、河野、関、越光、篠田、後藤裕、指山、上野、河邉、院長〉
「不妊症治療の現状と今後の展望」（セントマザー産婦人科医院　院長　田中温先生）
03.05 第166回 体外受精教室　参加者69名
参加〈工藤、越名、大津、相澤、岡田、二宮、赤嶺、後藤裕〉
03.05 第45回　ガーネットサークル　OG1名、参加者5名
03.05 第1回　インパクトファクタープログラム（東京）　参加〈小池、城戸、熊迫、上野〉
03.06 市民公開講座　産婦人科へ行こう!! 2011（長崎）　参加〈佐藤、大津、後藤裕、院長〉
03.07 新職員　青木麻有さん（受付）
03.07 株式会社パズラボ　フリーマガジン『ジネコ』春号（Vol.9）取材
03.12 第2回　第7期オリーブの会　参加者8名
03.15 第144回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会　野村陽一牧師先生ご来院
03.18 第202回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈院長〉
03.19 第44回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）　参加者77名
講師〈後藤裕（看護副師長）、上野（臨床心理士）、院長、
おがた泌尿器科医院　緒方俊一先生〉
参加〈山路、青木、足立小、佐藤、手島、川村、足立直、越光〉
03.22 院内全体研修：防災訓練（担当：看護部）
03.25 第13回　セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学　教授）、
近藤邦子先生（別府平和園保育士）、
指山実千代（セント・ルカ産婦人科　看護部顧問）、
野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会　牧師）（五十音順）
03.26 第167回 体外受精教室　参加者62名
参加〈平松、油野、青木、熊迫、相澤、二宮、赤嶺、篠田、上野〉
03.30 医療法人セント・ルカ新病院建築上棟式

04.02 第56回　新患教室　参加者42名　参加〈工藤、越名、城戸、坂本、手島、足立直、後藤裕〉
04.09 日本哺乳動物卵子学会常任理事会（東京）　参加〈院長〉
04.12 第145回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会　野村陽一牧師先生ご来院
04.16 第3回　第7期オリーブの会　参加者7名
04.22 第33回　大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会（大分）
参加〈山路、平松、工藤、青木、西郡、足立小、越名、金子、小池、城戸、坂本、手島、相澤、川村、岡田、井澤、松元、二宮、赤嶺、斉髙、河野、関、後藤裕、上野、河邉、院長〉
「生殖補助医療登録から見えるもの」
（国立成育医療研究センター　母性医療診療部・不妊診療科　医長　斎藤英和先生）
04.23 第1回　インパクトファクタープログラム（大阪）　参加〈佐藤、長木、大津〉
04.23 第7回　九州産婦人科内視鏡手術研究会（福岡）　参加〈二宮、越光、後藤裕〉
発表：「挙児希望患者に対するLaparoscopic myomectomy（LM）と
2-nd look laparoscopy（2-nd）の所見について」（院長）
04.24 第68回　日本生殖医学会九州支部会（福岡）　参加〈越光、河邉、院長〉
第4群［心理・看護］座長：上野桂子
発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド；CPA）投与によるマウス受精能への影響
－投与量の検討－」（小池恵）
「胚移植不能・全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」（城戸京子）
「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」（熊迫陽子）
「不妊治療患者の性生活の現状と意識調査」（二宮睦）
「自己注射におけるヒヤリ・ハット報告～重大事例を振り返って～」（後藤裕子）
04.30 第168回 体外受精教室　参加者56名　参加〈山路、佐藤、相澤、岡田、赤嶺、篠田〉
04.30 JISARTフォローアップ部会（大阪）　参加〈上野〉

05.02 大分県立病院　中山裕晶先生研修のためご来院（～5月31日まで）
05.06 厚生労働省科学研究費児の調査研究打合せ（東京）　参加〈工藤〉
05.07 第57回　新患教室　参加者64名　参加〈山路、青木、小池、坂本、手島、川村、後藤裕〉
05.10 第146回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会　野村陽一牧師先生ご来院
05.10 株式会社パズラボ　フリーマガジン『ジネコ』秋号（Vol.11）取材
05.11 大分県立看護科学大学（大分）講義
参加〈山路、平松、青木、金子、坂本、手島、井澤、松元、後藤裕、中山〉
講義：「不妊症講座」（院長）
05.14 第169回 体外受精教室　参加者30名　参加〈工藤、西郡、熊迫、相澤、岡田、赤嶺、関〉
05.14 第7回　ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会　参加者7名
05.18 SarahBase 新機能導入
05.21 第4回　第7期オリーブの会　参加者5名
05.21 第52回　日本哺乳動物卵子学会総会・学術講演会（栃木）
一般演題　第1群　ART（1）座長：院長
発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド）投与によるマウス受精能への影響
－投与量の検討－」（小池恵）
「凍結施行前と融解後における胚盤胞の呼吸量変化の比較検討」（熊迫陽子）
05.21 第9回　日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会（栃木）　参加〈院長〉
05.27 The 8th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility（Hong Kong）
参加〈越名、松元〉
講演：「Epigenetics of assisted reproduction」（院長）
ポスター発表：「Respiration Activity of Single Blastocyst :
the Relationship between Pre-Freezing and Post-Thawing」
（熊迫陽子）
（Best Poster Award候補演題）
「Incident Reports of the Nursing Department
in Fertility Clinic」（後藤裕子）
05.28 第3回　JISART心理教育セミナー（福岡）　参加〈上野〉
05.28 第4回　JISART事務教育セミナー（福岡）　参加〈山路、平松、西郡、足立小〉
05.28 第4回　JISARTラボ教育セミナー（福岡）　参加〈長木、大津〉
05.28 第8回　JISART看護教育セミナー（福岡）　参加〈河野、越光〉
05.28 第35回　JISART理事会（福岡）　参加〈工藤〉
05.29 第9回　JISARTシンポジウム（福岡）　参加〈西郡、足立小、長木、大津、河野、越光〉
講演：「私が長く勤められたセント・ルカ産婦人科の魅力」（上野桂子）

06.04 第58回　新患教室
06.07 ISO9001マネジメントレビュー
06.18 医療法人セント・ルカ新病院竣工式
06.19 第18回　セント・ルカセミナー
講師：荒木　晃子先生〈NPO法人Ｆｉｎｅ～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～〉
講師：有馬　隆博先生〈東北大学大学院医学系研究科　教授〉
講師：緒方　勤先生〈浜松医科大学小児科　教授〉
講師：高橋　克彦先生〈広島ＨＡＲＴクリニック　理事長〉
講師：田中　温先生〈セントマザー産婦人科医院　院長〉
講師：吉村　泰典先生〈慶應義塾大学医学部　教授〉（五十音順）

著　書
〈院　長〉
「ヒト胚のクオリティー評価」『卵子学　Oocytology』（京都大学学術出版会）
（掲載予定）
「ヒト卵管液の組成」『生命の誕生に向けて〈第二版〉
－生殖補助医療（ＡＲＴ）胚培養の理論と実際』（近代出版）
「生殖医療の現状」『産科と婦人科』（診断と治療社）（掲載予定）
「IVMの現状と将来」『産科と婦人科』（診断と治療社）（掲載予定）
「Infertility」『Encyclopedia of Disability』（丸善出版）（執筆中）

論　文
〈井澤里砂〉
「排卵誘発剤の在宅注射に対する夫婦間の意識調査～配偶者（夫）による排卵誘発剤の在宅注射を推奨して～」『産科と婦人科』（治療と診断社）（掲載予定）

妊娠報告件数

（2010.12.1～2011.5.31）

体外受精、顕微授精等
88件
＊
その他（体外受精以外）
92件
計　180件

編集後記

2010年8月の起工式から工事が始まり、今年3月30日上棟式を行いました。東北の震災直後だったため、上棟式を行うかどうか迷いましたが、ルカにとってのひとつの節目として行うことになりました。全員で黙祷後、野村陽一牧師先生の上棟の祈りの下、厳かに上棟式が行われました。天候にも恵まれ、多くの方々の参加をいただき盛大に餅撒きが行われました。新病院は着々と工事が進んで完成間近です。　（M・N）

上棟式

JISART
Japanese Institution for Standardizing Assisted Reproductive Technology

発行：医療法人セント・ルカ産婦人科／セント・ルカ生殖医療研究所
〒870-0823　大分市東大道1丁目4番5号　☎097-547-1234　FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp　http://www.st-luke.jp/
携帯サイト　http://www.st-luke.jp/imode.htm